

第 22 回 上越市公文書センター出前展示会 (1月4日から 2月28日まで)

いとし

「昭和最後の亥年・昭和 58 年(1983)の出来事」

昭和 58 年(1983)の日本全体の世相

今年の干支は亥年ですが、昭和最後の亥年であった昭和58年(1983)は、どんな年だったのでしょうか。当時の『警察白書』は、この年を「内外とも経済情勢に明るさがみえたものの、予想外の事件が多発した緊張と波乱の年であった。」と記しています。津波災害を伴った日本海中部地震や三宅島大噴火等の大規模災害が発生した一方、東京ディズニーランドの開園や中国自動車道の全線開通など明るい出来事もありました。パソコンやワープロが急速に普及したのもこの年からで、子どもたちの遊びに大きな変革をもたらしたファミコン(ファミリー・コンピュータ)も登場しました。テレビ放映等をきっかけに、辛抱して努力する人が注目を集め、「おしん(NHK連続テレビ小説)・家康(NHK大河ドラマ「徳川家康」放映)・隆の里(糖尿病を克服し30歳11か月で横綱に昇進)」が流行語になりました。

昭和58年は、上越市域でも以下に紹介するとおり、様々な出来事が起きた年でした。

昭和 58 年に日本で起きた主な出来事

月 日	出 来 事
3月24日	中国自動車道が全線開通
4月 4日	NHK 朝の連続テレビ小説『おしん』放送開始
4月15日	東京ディズニーランド開園
5月26日	日本海中部地震(M7.7)、津波で死者 104 人
7月15日	任天堂が「ファミリー・コンピュータ」を発売
7月22日	山陰地方で豪雨、死者 119 人
9月 1日	大韓航空機が墜落され乗員・乗客 269 人死亡
10月 3日	三宅島大噴火、家屋の埋没・焼失約 400 棟
10月12月	ロッキード事件裁判の第一審で、田中角栄元首相に懲役4年、追徴金5億円の実刑判決
10月14日	東北大で日本初の体外受精児が出生

高速交通時代の幕開け—上越新幹線・北陸自動車道・上新バイパス—

上越新幹線の開業 当時、直江津駅—上野駅間(信越本線—高崎線)には特急「あさま」や「白山」が運行されており、所要時間は約4時間30分でした。昭和57年(1982)11月15日に上越新幹線(大宮駅—新潟駅間)が暫定開業し、直江津駅から長岡駅経由で上越新幹線を利用すると、特急(北越雷鳥)→新幹線(あさひ)→新幹線リレー号(大宮駅—上野駅間)と乗り換えが必要でしたが、約3時間30分に短縮されました。

北陸自動車道の延伸 現在、新潟中央 JCT(ジャンクション)と滋賀県の米原 JCT を結ぶ北陸自動車道は、昭和47年(1972)10月に金沢 IC(インターチェンジ)—小松 IC 間がまず開通し、石川県・富山県・福井県内の工事が先行して進められました。新潟県内では、昭和53年9月に新潟黒崎 IC(平成元年6月に「黒崎 IC」に改称)—長岡 IC 間、昭和55年9月に長岡 JCT—西山 IC 間、昭和56年10月に西山 IC—柏崎 IC 間、昭和57年11月に柏崎 IC—米山 IC 間が開通しました。そして、昭和58年11月9日に米山 IC—上越 IC 間が開通し、上越市と新潟市が約1時間30分で結ばれました(北陸自動車道の全通は、昭和63年7月20日)。この翌日には、高田駅—新潟駅間、直江津駅—新潟駅間の2路線の高速バスが運行を開始しました。同年10月28日には、北陸自動車道に連結する上新バイパスの今池—三田間7kmが開通しており(国道18号寺町交差点—今池間4.2kmは昭和57年11月2日に開通、/上新バイパス下源入—中郷村市屋間の全通は平成3年7月30日)、同年10月23日は、「北陸自動車道・上新バイパス開通記念サイクリング大会」が上越 IC—米山 IC 間で開催され、約2,500人が走破しました。なお、同年10月21日には、高土町と大字寺を結ぶ上越大橋が竣工し、国道18号(現上越大通り)と上新バイパス・上越 IC をつなぐ取付道路が完成しました。

海と山の観光施設の整備と拡充

水族博物館にビーチランドを新設

昭和55年(1980)7月18日に開業した上越市立水族博物館は、開館当初から毎年35万人前後の入館者を記録し、上越市を代表する観光スポットになりました。昭和58年7月5日には、ヒトデやウニなど磯の生物37種2千点を手に取って観察できるビーチランドが新たに誕生しました。夏休み中の8月19日には開館以来の入館者数が130万人を突破しました。

スーパーボブスレーの開業

昭和58年(1983)7月24日、市の「明るい子どものまち推進事業」の一つとして金谷山に建設されたスーパーボブスレーが開業しました(建設費用の全額8,500万円を佐川急便株式会社の佐川清会長が寄贈)。初年度の利用者は、約7万5千人でした。翌年の昭和59年のオープンに合わせてナイター照明が設置され、同年7月には第2コースが完成しました。

海洋フィッシングセンターの開業

昭和58年(1983)8月19日、郷津海岸の虫生岩戸むしういわとに海洋フィッシングセンターが開業しました。安全で快適な海釣りの場所を提供すること、水産資源と漁業に対する理解を促すことを目的とした農林水産省の「新沿岸漁業構造改善事業」として約1億6千万円の予算で整備されたものです。栈橋さんばしには漁網で囲まれた約1,800㎡の釣堀がつくられ、三日に一度1,500匹の魚が放流されました。この年、2万6千人余りの利用者でにぎわいました。

林道難波(なんば)線の開通

南葉高原キャンプ場は昭和56年(1981)7月に開業しましたが、キャンプ場へは県道後谷・黒田・脇野田停車場線の上門前地内から林道を通るルートしかありませんでした。昭和58年4月27日に灰塚の熊野神社からキャンプ場入口に通じる林道難波線5.4kmが開通し、高田市街地方面からのアクセスが大きく向上しました。

昭和58年に上越市域で起きた主な出来事

月日	出来事
2月1日	清水市・上越市中学校交歓会30周年(～4日)
2月27日	金谷山・心のふるさと道で「第1回歩くスキーの集い」開催
3月10日	中ノ俣小学校上綱子冬季分校閉校
3月30日	高田警女最後の親方・杉本キクイさん逝去(享年85)
4月1日	城北中学校の過密化等に伴い、春日中学校開校
"	上越地域消防事務組合が初の女性消防官4人を採用
4月14日	上越教育大学大学院第1回入学式(院生83人が入学)
4月27日	林道難波線開通式
5月9日	県立上越科学館起工式(昭和59年10月1日開館) ※リージョンプラザ上越の起工式は前年の10月2日
5月13日	杉本キクイさんを偲んで3年ぶりに天林寺で妙音講開催(寺町3)
6月29日	ガス水道局舎起工式(昭和59年6月4日開庁)
"	前年に続き、高田公園ブロンズプロムナードに5基を追加設置
7月5日	開館3周年を迎えた水族博物館にビーチランド開設
7月23日	大型カーフェリー「こがね丸」が直江津ー小木航路に就航
7月24日	金谷山にスーパーボブスレー開設(初年度7万5千人利用)
7月	杉みききさんが第13回赤い鳥文学賞を受賞
8月14日	復活後2年目となる「第4回はすまつり」開催(～15日)
8月19日	海洋フィッシングセンター開所(初年度2万6千人利用)
"	水族博物館の入館者が130万人を突破
8月	高田公園に3,500㎡の芝を張った自由広場が完成
9月19日	金谷山オールシーズンジャンプ台で第3回サマージャンプ大会
9月	大町通りと仲町通りに総延長3kmの消雪パイプ敷設
10月1日	新潟テレビ21開局
10月8日	カルチャーセンター開所(公民館直江津地区館入所)
10月21日	高土町と大字寺間を結ぶ上越大橋開通
10月23日	北陸自動車道・上新バイパス開通記念サイクリング大会
10月28日	上新バイパスの今池ー三田間開通
10月30日	第1回ファミリー綱引き大会
11月6日	正善寺ダムの右岸と左岸を結ぶ正善寺湖橋竣工
"	本町3丁目商店街近代化第4期工事完了(サンサン通りの80%の工事が終了)
11月9日	北陸自動車道の米山ICー上越IC間開通
11月10日	新潟ー高田間、新潟ー直江津間の高速バス運行開始
12月15日	夜間から大雪、3年豪雪のはじまり(最深積雪292cm)

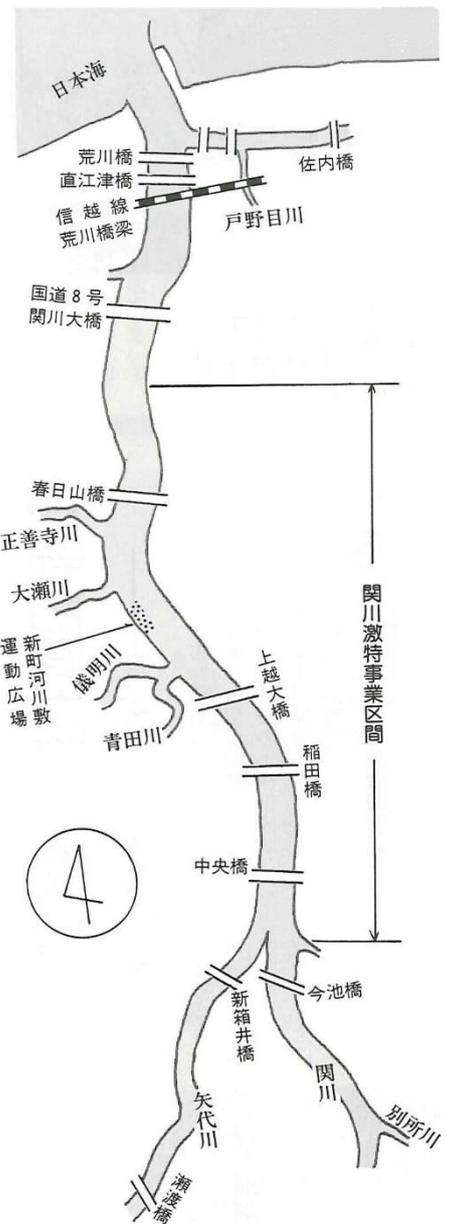
将来を見据えた大規模事業の進展

関川改修 関川流域では昭和 40 年(1965) 9 月、44 年 8 月など、過去に大きな水害が発生していました。昭和 44 年に関川が 1 級河川に指定されると、建設省は「工事実施基本計画」を策定し、関川改修事業を開始しました。河口から別所川と関川の合流点までの 12.2km を対象に、川幅を 70~140m に拡幅し、湾曲部分を直線化するとともに、川底の浚せつと全区間の築堤を行うというものでした。用地買収とそれに伴う家屋移転(最終的に約 680 戸)が先行して行われ、その後、改修工事に着手しました。その最中の昭和 57 年 9 月 12 日から 13 日にかけて襲来した台風 18 号がもたらした豪雨により、合併前上越市では関川流域の 78 町内で 4,500 棟余りが浸水しました。これを受けて、同年 11 月に関川大橋上流から矢代川との合流点までの 6.4km が「河川激甚災害対策特別緊急事業(激特事業)」に指定され、昭和 58 年から関川改修が加速しました。この「激特事業」は昭和 62 年 11 月に終了しました。

完成間近の正善寺ダム 正善寺ダム(完成時に命名、それ以前は仮称として**正善寺川ダム**を使用)は、昭和 51 年(1976)から設備工事が開始されました。新潟県と上越地域水道用水供給企業団が、上水道及び農業用水の確保や洪水防止などを目的として建設したものです。供給地域は、企業団を構成する上越市・新井市・柿崎町・大潟町・吉川町・板倉町・頸城村・清里村・三和村の 9 市町村で、一日当たり 4 万 m³の供給を目指しました(平成 25 年度をもって企業団は解散し、現在は上越市がダムを管理)。昭和 58 年の秋に、高さ 47m・幅 187m のダム本体のコンクリート打設が終了しました。その後、昭和 59 年 11 月 6 日に正善寺ダムは竣工しました(昭和 60 年 4 月 17 日に給水開始)。なお、昭和 58 年 11 月 6 日には、正善寺湖の右岸と左岸を結ぶ正善寺湖橋(湖底からの高さ 40m、長さ 133m)が完成しています。

県立上越科学館の着工 昭和 56 年(1981)、自治省は田園都市構想に基づく「リージョンプラザ(田園都市中核施設)」を全国 10 か所に建設することを発表しました。その一つに上越圏が指定され、リージョンプラザ上越が下門前に建設されることになりました。これを受けて、新潟県は「立県百周年記念事業」として「上越科学文化センター(仮称)」をリージョンプラザ上越の隣接地に建設することを決定しました。後に県立上越科学館と命名されたこの施設は、昭和 58 年 5 月 9 日に建設工事が始まりました。一方、リージョンプラザ上越は、昭和 57 年 10 月 2 日に着工されました。両施設合せて総事業費 70 億円の大事業となりましたが、昭和 59 年 10 月 1 日に県立上越科学館・リージョンプラザ上越が同時にオープンしました。年末までの 2 か月間に両施設合せて約 14 万 8 千人が訪れる盛況ぶりでした。ちなみに、上越科学館は平成 18 年(2006) 4 月 1 日に新潟県から上越市に移管されたため、これ以降「県立」の文字は外されました。

関川激甚災害対策特別緊急事業



広報じょうえつNo.359 より
(昭和 62 年 11 月 1 日発行)

第二次ベビーブーム世代の就学

昭和 58 年(1983)の上越市域の人口は、現在よりも約 2 万 1 千人余り多い 214,728 人でした。また、小学校の児童数は現在の約 2.0 倍、中学校の生徒数も約 1.9 倍で、人口に占める小・中学生の割合が高い時代でした(昭和 58 年=13.7%、平成 30 年= 7.7%)。

昭和 58 年と平成 30 年の上越市域の人口、小・中学校数、児童・生徒数

	人口	小学校数	児童数	中学校数	生徒数
昭和 58 年	214,728 人	90 校	19,897 人	33 校	9,588 人
平成 30 年	193,442 人	51 校	9,908 人	23 校	4,928 人
S58-H30	21,286 人	39 校	9,989 人	10 校	4,660 人

※小・中学校数、児童・生徒数には、上越教育大学附属小・中学校を含む

さて、日本全体では、昭和 46 年から 49 年にかけて出生数が 200 万人を超え、この時期を第二次ベビーブームと呼んでいます。合併前上越市でも、第二次ベビーブーム及びその前後に生まれた子どもたちが小学校及び中学校に入学するようになると、児童数と生徒数が著しく増加しました。小学校では、昭和 54 年から 60 年まで児童数が 1 万 2 千人を超えました。中学校では、昭和 57 年に生徒数が初めて 6 千人を超え、平成 2 年(1990)までこの状態が続きました。

このような中、昭和 58 年 4 月 1 日に春日中学校が開校しています。昭和 34 年 9 月 1 日に旧春日中学校と大町中学校が統合し城北中学校が開校すると、春日地区の中学生の多くが城北中学校へ通学することになりました(一部は直江津^{中学校へ通学})。しかし、上越市庁舎周辺の人口増、第二次ベビーブーム世代の入学による城北中学校の生徒数の増加が、春日中学校新設の要因となったのです。

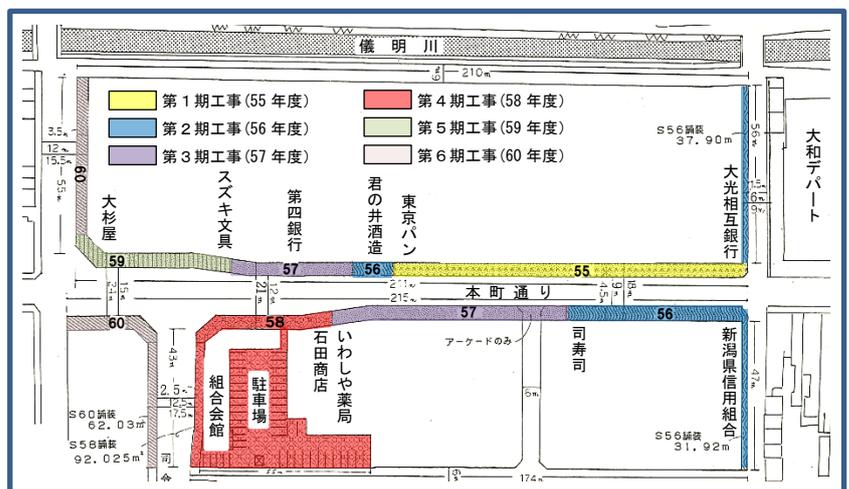
本町商店街近代化事業 —本町 3 丁目商店街の第 4 期工事終了—

かつての高田本町商店街は、自家用車の増加に対応できない狭い道路、段差のある狭い雁木通り、老朽化した木造店舗などが大きな課題でした。昭和 39 年(1964)に、土地区画整理事業と商店街の改造に向けた計画づくりが開始されましたが、関係者の合意形成が図られず、長い間、具体的な進展がみられませんでした。昭和 49 年 11 月に長崎屋高田店^(本町 5)、翌 50 年 7 月に大和上越店^(本町 4)が相次いで出店しました。さらに、上越市発足後、旧高田市役所庁舎^(本町 3)を仮庁舎として使用していた上越市役所は、昭和 51 年 3 月に木田の新庁舎に移転し、本町商店街の客足は大きく落ちました。これらの環境変化は、関係者に商店街近代化の必要性を強く認識させました。

昭和 53 年 7 月、「本町大町土地区画整理事業」が県知事の認可を得て、ようやく本町商店街近代化事業が開始されました。総事業費は 45 億円で、車道が 9 m・歩道が片側 4.5m に拡幅され、雁木に代わるアーケード・増加する自家用車に対応する駐車場が造られました。本町 3 丁目は昭和 55 年から 60 年、本町 5 丁目は昭和 61 年から平成元年(1989)、本町 4 丁目は平成 2 年から 4 年に事業が実施されました。

昭和 58 年時点では、本町 3 丁目の第 4 期工事が完了していました。

本町3丁目商店街近代化事業整備計画図(昭和 55~60 年度)



「商店街近代化事業建設診断報告書」(本町3丁目/昭和 59 年 3 月)より作成